

TEGOネットだより浜田



「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成20年10月9日 第17号
浜田市農林業支援センター

はじめに

恐れていた台風の影響もなく、水稻をはじめとして収穫に追われる毎日のことと思います。今年日本に上陸した台風は現在のところゼロだそうです。台風は熱帯などの暖かい海域でしか発生しませんが、いつ発生してもおかしくないほど海水温が上昇している状況だそうです。今後の気象情報に注意して早めに対策を講じられることが大切と感じています。また、体の健康管理も十分に注意を払い、収穫の秋を乗り越えましょう。
(浜田市農林業支援センター長 齋藤 寛)

1. 各支援チームからの話題

★ 新規就農支援チーム (担当: 河内・佐々本)

シリーズ「販売価格について」その3

前回は経営計画の販売単価を設定するために市場価格を調べる方法を紹介しました。収量と経費については県の経営指針を参考にすれば第1回目の収支計算が完成します。

これを叩き台として検討を進めていくのですが、まずは収支のバランスと初期投資に対する返済計画を検討します。収入が少ないと判断されれば、販売単価を高くするか、経費の節減が必要となります。

販売単価を向上させるには、出荷基準に満たないものを加工等により現金化する、市場外の有利販売先を確保するなどの方法があります。

このように、就農に向けて一番初めに検討するのが生活資金を獲得するための必要売上額、つまり目標出荷量×目標平均販売単価なのです。よって、目標販売単価をクリアするために複数の販売先と交渉して確保する取組と、収量をクリアするための技術習得が重要となります。そして、それぞれの商談の際に妥結できる価格と出荷可能量を年次別に把握しておくことが必要です。

● 認定農業者支援チーム (担当: 前原・松井)

今回は、農地保有の合理化を促進するために、(財)しまね農業振興公社(以下、県公社)が実施する「農地保有合理化事業」を紹介します。

「農地保有合理化事業」とは、農地の売買や貸借が行われる際に、**県公社が農地を買入れまたは借入れし、一定期間保有した後、一定の要件を満たす担い手農家に再配分する**(売渡し、貸付けまたは一時貸付け後の売渡し)ものです。この事業には、農地の出し手と受け手双方の心理的抵抗感の解消、県公社との契約だけで済むことによる事務処理の軽減、出し手に対する小作料の一括前払い、不動産取得税や登録免許税の軽減等の税制上の特例措置 といった様々なメリットがあります。

事業を活用する場合、①農業振興地域の農用区域内の農用地等であること ②買取り・借受け後の経営面積が一定面積であること が必要ですが、経営拡大を検討される方はぜひご相談ください。

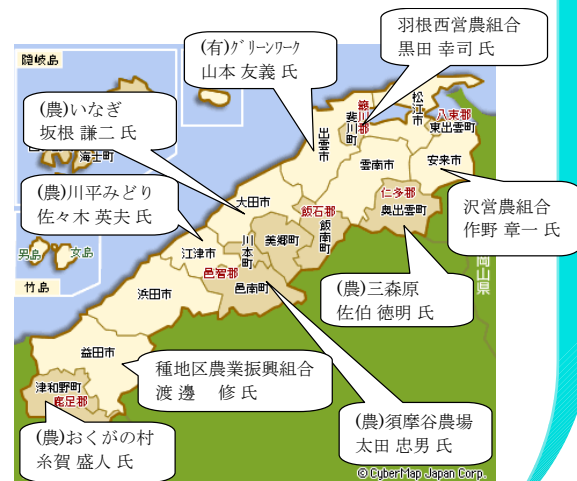
■ 集落営農組織支援チーム (担当: 塚本・森井)

島根県では、集落営農の組織化に向けて、「アドバイザー個別巡回・相談」という取組を行っています。

これは、9名のアドバイザー(右図記載の集落営農実践者)が**各集落を個別に巡回し、それぞれが抱える課題や悩みを解決するための話し合いと意見交換を行う**ものです。また、各組織が講演会や研修会を企画し、その講師としてアドバイザーを活用することも可能です。

平成19年度は浜田市内の2地区がこの制度を活用され、うち1地区は講演会を開催したことにより組織化に向けた気運が高まり、営農組合の設立につながりました。

アドバイザー派遣に係る謝礼や交通費は県の担い手育成総合支援協議会から支払われますので、各組織の負担はありません。申込やお問い合わせは支援センターまでお気軽にどうぞ。積極的な活用をお願いします。



2. いちじくの販売促進イベントが開催されました



9月19日(金)、きんさい市場黒川店(黒川町)で、「**浜田市いちじく生産組合**」主催の**販売促進イベント**が初めて開催されました。生果とジャムの試食販売を行いました。浜田(長浜地区)のいちじくと聞くとほとんどのお客様が喜んで手を伸ばされ、「甘い」と大好評でした。

当日店頭に並んだ**80パックはあっという間に売り切れてしまい、お客様の残念がる声**が聞かれましたが、組合員の皆さんは予想以上の反響に驚きながらも、生産意欲を掻き立てられた様子でした。いちじくは10月まで出荷の予定です。地元浜田のいちじくをぜひ味わってください。

3. 西条柿利活用研究会専門部会の活動報告

9月30日(火)、西条柿の高度利用と新製品・新技術の開発を目的に設立された「**西条柿利活用研究会**」の主催で、広島文教女子大学の鶴永准教授による講演会「**西条柿を用いた加工食品の事例紹介**」が行われました。

准教授からは、「**柿には多様な加工品があるが、特に若い世代での認知度が低い**」という問題提起があり、有効成分や効能(防水・撥水・抗菌・脱臭等)をPRすることが必要との助言をいただきました。

講演後に行われた田橋町の圃場見学では、園主の太田氏から、「大玉で甘い柿を育てるためにしっかり手をかけて管理している」との説明を受け、研究会メンバーと生産者が一丸となって商品開発や販売対策を実践し、産地を盛り上げていく体制づくりが重要だと再認識しました。



4. 遊休農機具あつ旋コーナー〔譲ります〕

今回紹介するのは**小型の椎茸乾燥機**です。米子市の太昭農工機という会社の製品で、現在も販売されているものです。10年ほど前に7万5千円くらいで購入されましたが、ほとんど使用されていないそうです。

重箱式エビラ6枚差しで、一度に生椎茸10~15キログラムを乾燥させることができます(※ただし熱源が別途必要です)。値段は相談に乗っていただけますので、購入を希望される方、現物を見てみたい方は支援センターまでご連絡ください。所有者様に取り次ぎます。

遊休農機具情報は随時募集しています。他人に譲っても良い農機具があればお知らせください。



5. 水稻育苗ハウスを活用した『野菜のトロ箱栽培研修会』のご案内

集落営農組織等の水稻育苗ハウスの有効活用と経営多角化を図ることをねらいに、標記の研修会が以下の日程で開催されます。

「**トロ箱栽培(少量土壌地耕)**」とは、トロ箱やプランターなどに少量の土壌をつめて野菜や花きを栽培する技術で、①**移動可能なこと** ②**低コストであること** ③**投入肥料が低減できること** などが注目され、集落営農を中心とした普及が期待されています。出席を希望される方は当支援センターまでご連絡ください。

○日時：10月15日(水) 午後2時~3時30分

○会場：ふるさと支援センターめぐみ(江津市後地町)

6. 今後の行事予定

- 11月5日(水) 午後1時30分~ 第2回集落営農組織化塾 会場：あすてらす(大田市)
- 11月8日(土) 午前9時~ 有機農業実践セミナー(第7回)【最終回】 会場：弥栄会館
- 11月12日(水)~14日(金) 担い手先進地視察研修会(第11回全国農業担い手サミット in みえ)



○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様へ配信しています。
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター TEL: 22-3500 FAX: 22-3477
E-mail: n-shien@city.hamada.shimane.jp